

1 「日本スゴイ」現象

・「日本スゴイ」とは、「日本」や「日本人」が、歴史的・文化的あるいは道徳的なすばらしい特性を持っていて、世界的に優れたものだと賞賛してみせる意識商品」のことを指して使っています。

・最初に目立ったのはテレビ番組

NHK COOL JAPAN ―発掘！かっこいいニッポン― 2006年～
驚き！ニッポンの底力 2014年～

* TOKYO2020 関連の海外向け日本文化紹介番組は多数。

TBS系 世界の日本人妻は見た！ 2013年～
ぶっこみジャパニーズ 2013年～
ホームカミ——ニッポン大好き外国人 世界の村に里帰り—— 2013年～
アメージパング！——オレたちご当地外国人—— 2014年～
所さんのニッポンの出番 2014年～
メイドインJAPAN 2016年(?)

テレビ朝日系 世界の村で発見！こんなところに日本人 2013年(レギュラー化)
世界が驚いたニッポン！スゴ～イデスネ！！視察団 2014年
日本のチカラ 2015年～

テレビ東京 和風総本家 2008年(レギュラー化)～
未来世紀ジパング 2011年～
世界ナゼそこに？日本人—知られざる波瀾万丈伝— 2012年～
YOUは何しに日本へ？ 2013年～
世界!ニッポン行きたい人応援団 2016年～
ヒャッキン!～世界で100円グッズを使ってみると？ 2017年～

・日本スゴイ書籍

2 経産省公式「日本スゴイ」パンフの衝撃

・「世界が驚くニッポン」刊行にあたって計上された事業費は約1500万円。印刷部数は2000部、配布は在京大使館、政府及び政府関係機関、地方自治体、企業関係者(経団連、全国商工会連合会、過去のクールジャパン支援事業者等)などに限定されており、一般向けには紙媒体のものは頒布されていない。

・日本人の自然観

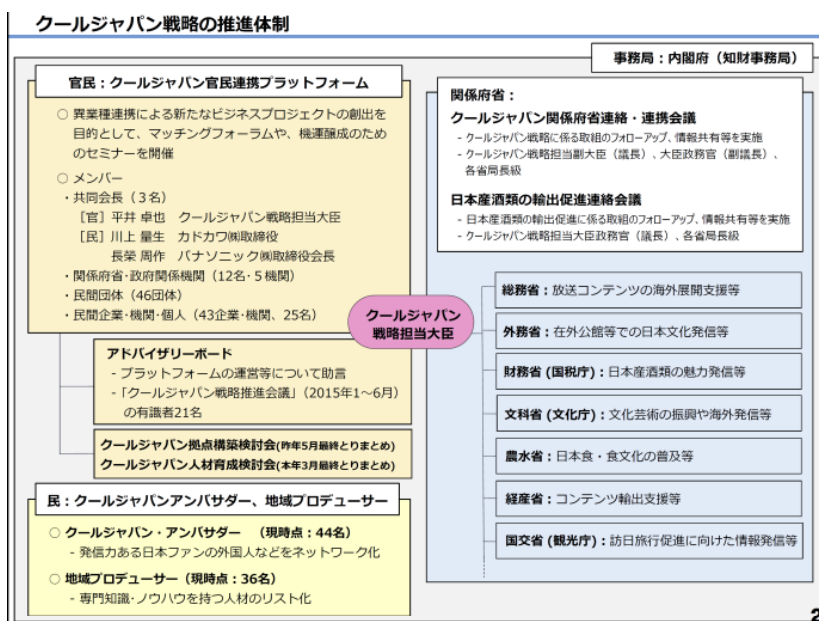
「日本人らしさ」とは何だろうか？その核をかたちづくっているのは、日本人独特の自然観ではないだろうか。日本は、四方を海に囲まれた島国であり、山国でもある。南北に長く、四季に富んだ温暖な気候、豊富な水資源、山海の幸……、自然は日本人に、さまざまな恵みを与えてきた。一方で台風、洪水、豪雪、火山、そして地震など、過酷な試練も課してきた。その中で生まれたのが、自然ぞ畏怖しながらも、自然に自らも溶け込ませ、共生しようとする独自の自然観だ。自然＝克服すべき対象とみなした近代西洋の合理的自然観とは対照的だろう。

また、西洋の一神教とは異なり、日本人は「八百万の神」として、すべてのものを神としてあがめた。海や川、山はもちろん、大木、岩、動物、日用品など、あらゆるものに神さまが宿ると信じてきた。たとえば日本人は、鈴虫が鳴く「声」を聞くと、「秋がきた」と感じる。虫が自分に「話しかけている」という感覚があるからだ。つまり日本人は、人間を見るのと同じように自然を見て、感じる心を持っている。こうした自然との同化感覚が、自然の恵みに感謝し、謙虚であろうとする道德、倫理観にもつながっている。自然と共生する中で、自分と自然を同化させ、「内なる自然」を育ててきたのだ。日本に残る歴史的建造物を見れば、そういった「日本人らしい、心」を感じることができるだろう。

* 経済産業省『世界が驚いたニッポン』（2017年）

・クールジャパンと「日本スゴイ」

2010年6月、経済産業省が「クール・ジャパン室」を設置する。国内人口の縮小や、従来型産業のピークアウトによって内需が減少したため、海外需要の獲得と共に関連産業の雇用を創出することが「クール・ジャパン戦略」と命名され、これ以降は「クール・ジャパン戦略」が日本の国策と位置付けられる。



2012年の第2次安倍内閣の発足時にクールジャパン戦略担当大臣が置かれて、民主党政権時代よりもより優先度の高い政策として位置づけられていく。

* 内閣府 知的財産戦略推進事務局「クールジャパン戦略について」（2019年2月）

・第二次安倍政権のもとで、「日本」を強調する各種とりくみも増加

・「日本の美」総合プロジェクト（2015年、内閣総理大臣の下に設置）

・アニメ「天孫降臨」企画など

津川雅彦座長の発言

○手法2としては、日本映画での世界市場開拓。映画や映像は、日本の奥深さを伝達する最も効率のよいメディアであり、戦略的に活用してはいかがか。まず、「天孫降臨」をアニメ化する。日本の神話を小中学生に、世界の子供たちに、まるで我々がかつて見た孫悟空のように、「天孫降臨」を面白く見せたいと思う。また、時代劇を「文化による世界の日本化」のための戦略として制作したい。時代劇は異物の混在を許容する日本の価値観を物語にしやすいからである。

* 「日本の美」総合プロジェクト懇談会（第2回）議事要旨（2015年12月18日）

・ジャポニスム2018総合推進会議

・東京オリンピック 2020 に向けても、こうした「クールジャパン」の国策的なとりくみは加速している

3 教育に入り込む「日本スゴイ」

・服部剛『先生、日本ってすごいね——教室の感動を実況中継！』（高木書房、2015年）

こんな教師がいる限り、日本人の精神は決して亡びることはない。

横浜市内の公立中学校で道徳の授業を受け持つ著者が、日本人の優れた心性やそれに触れた外国人との感動の物語などを紹介し、生徒たちに考えさせる授業の内容を公開した一冊。いじめや学級崩壊など、教育現場からは何かと芳しくないニュースが多く伝えられる中、これほどまでに生徒たちのことを真摯に思い、また、これほどまでに生徒たちを惹き付け、自己犠牲や他者への思い遣りなど、日本人ならではの美德を子供たちの胸に刻もうとする教師が今時いたのかと、失礼ながら、驚きを禁じ得なかった。同時に、毅然とした生き方を貫いた数多くの日本人の姿に、繰り返し溢れる涙を到底抑えることが出来なかったし、授業を受けた後の生徒たちの感想文にも、何度も胸を打たれた。こんな教師がいる限り、日本の教育現場と将来は決して捨てたものではない。そんな力強い思いが胸中に湧き起こった。

多くの人が同様なのではないかと推察するが、本書を読んでいて最も目を惹かれたのは、スズメバチに全滅される西洋ミツバチと、団結してスズメバチを撃退する日本ミツバチの生態の違いを説明した第15章である。まさか日本ミツバチが、集団で団結して大きな力を発揮することを、同じ土地に住む人間から教わったということはないであろうから、単なる偶然だとは思いますが、日本人の特性が日本に住む昆虫にまで見られるというのは何とも面白い話である。

翻って思う。日本人が古来から受け継ぐこれほどまでに顕著な美質も理解できず、「侵略された。」だの「搾取された。」だのと事実無根を叫んでいるあれらの隣国は、一体どこまで浅ましい国々なのだろう。恥を恥とも思わぬとは、まさにこのことである。

また、日本人のこのような美質を必死に否定し、日本を貶めようと躍起になっている、日教組を中心とする反日左翼の歪んだ心情を思うと、そこまで虚しい奮闘を重ねなければ気が済まない彼らの大いなる行動力には、ただただ頭が下がる。

・著者の服部も参加している、元自由主義史観研究会の教育団体「授業づくり JAPAN」会員の感想文。

4 「よい日本人」

・「日本人」のセルフイメージ

礼儀正しい 清潔好き 列に並ぶ 大地震のときでも略奪しない などなど

・芳賀矢一『国民性十論』（富山房、1908年）のころから変わってない

・ついこの前まで、街中の立ち小便があたりまえだった歴史が忘れられている

・修身教科書における「よい日本人」

第四期国定修身教科書 尋常小学修身書 巻四（1937年）

二十七 よい日本人

よい日本人となるには、いつも、天皇陛下・皇后陛下の御徳をあふぎ、皇大神宮をうやまひたつとんで、忠君愛国の心をさかんにしなければなりません。また、紀元節・天長節・明治節などの祝日のいはれをわきまへ、国旗を大切にすることも、日本人としてだいなこころえです。

父母には孝行をつくし、先生をうやまひ、学校を愛し、友だちは仲よくして助け合ひ、近所の人にはしんせつにすることが大切です。

心をいつも正直にもつて、うちに居ても、外に出ても、ぎやうぎをよくし、かんにんといふことを忘れず、人と協同して助け合ひ、また、へいぜいはけんやくをまもり、じぜんの心も深く、人のなんぎをすくひ、生き物をあはれむやさしい心がけがなくではありません。さうして、人から受けたおんを忘れないばかりでなく、きそくをよくまもつて、人のめいわくになるやうなことをせず、進んで、世の人々のためにこうえきをはかるやうにしなければなりません。

いつも、自分のけんかうにちゅういして父母を安心させ、学問にはげみ、しどとにせい出し、また、物をよくせいとんし、心をおちつけて物事にあわてず、いざといふ時には、何でも出来るやうな勇気を、ふだんからやしなっておくことも大切です。

此のやうに、自分のおこなひをつつしんで、よく人にまじはり、世のため人のためをはかつて、天皇陛下の御ためにつくすやうに心がけるのは、よい日本人となるのに大切なことです。さうして、これらのこころえをおこなひにあらはすには、すべて、まごころからしなければなりません。

・こうした「日本人」のセルフイメージは勝手にやってろだが、しかし国民を動員する場面になると、このセルフイメージで人間を縛ってくる